

岡谷市民新聞

発行所
〒394-0028 岡谷市本町3
岡谷市民新聞社
編集・発行人 藤原 正

電話 記事23・4449
広告22・8000
購読22・8001
事業22・8002
総務23・4441
FAX 記事22・4444
FAX 広告21・1515

インターネットページ
www.shimin.co.jp
E-mail(記事)
mail@shimin.co.jp
E-mail(広告)
koukoku@shimin.co.jp

©岡谷市民新聞社 2010年
定価1カ月1,690円
1部売り60円(税込み)

市民新聞の購読申込みは本紙営業局
☎22・8001へ
本紙をお届けする販売店

共 新 聞 店	☎22・2393
読売 センター 岡谷	☎22・9830
産 経 新 聞 店	☎22・3881
中 日 新 聞 店	☎23・4129
毎日新聞岡谷支店	☎23・7706
唐 沢 新 聞 店	☎23・0896
□ 県地区 □	
渡 邊 新 聞 店	☎27・8114
信 毎 販 売 C 下 諏 訪 支 店	☎27・7602
毎日新聞専売所	☎28・6014
失 川 新 聞 店	☎27・3883
中 日 新 聞 専 売 所	☎28・3632

三沢区「帰農で明日のむらづくり」

炭焼き窯から地域の力を

区民農園の有志が完成

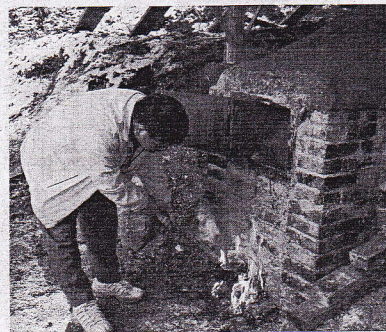
子どもの体験や間伐材活用

三沢区(山之内寛区)は窯の内部を燃やして長年の区民農園を利用する有志の手によって、高尾山ふもとの熊野太鼓置場上で炭焼き窯作りが進められてきた。作業がほぼ完了した二十八日、関係者ら



神事を執り行う関係者ら

終段階に入った。窯作りは、遊休農地や荒廃農地の再開発を目的とした同区の「帰農(ききのう)で明日のむらづくり事業」の一環で、約二年前に着手。本格的な窯作りに向け、区民有志たちは昨年春から県林業総合センターでの研修や昭



新しい窯に火入れの儀

和初期の文献などで窯づくりについて研さんを重ね、手分けで作業に取り組んできた。

窯は、大滝村の新豊式炭窯を参考にしたもので、内径約二尺、高さは一・三尺。「美

和(みやま)窯」と名付け、窯内部への雨や雪の侵入を防ぐヒノキ製の屋根も設置した。火入れ式では、山之内区長が二年半かけて、皆さんの尽力で立派な窯ができた。炭づくりには子どもたちにも参加してもらい、エコへの活用、いずれは焼き物などに幅広く使っていければ」とあいさつ。神事の後、山之内区長の手によって「火入れの儀」が執り行われ、窯に火が入ると参加者から大きな拍

手が送られた。炭の材料には、これまで山中に切り捨てられてきた間伐材を再利用する。同区育成会や児童養護施設つじけ丘学園など、地域の手どもたちにも炭焼きを体験してもらい、「農業ができる子どもたちの育成に役立てる。出来上がった炭は、暖房の燃料や区民農園の土壌改良、水質改善などに活用していくという。